



第2号
平成 25 年 12 月 15 日発行

発行
双葉町秘書広報課
☎ 0246-84-5202

企画・編集
ふたさぼ(双葉町復興支援員)

「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを深めるための情報紙です。自治会・団体の活動紹介や町民同士の新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。「ふたばのわ」を通して町民のみなさんのつながりや笑い合う場を増やしていけたら。



双葉町成人式 第2回実行委員会

実行委員長
鎌田尚幸さん

10月19日(土)に郡山市内のホテルにて、「双葉町成人式第2回実行委員会」が行われました。実行委員長の鎌田尚幸さんが加わり、成人式に向けて、準備は着々と進んでいます。鎌田さんに、今の想いを話していただきました。



成人を迎えて
自分たちの成人式が、双葉町として行えるとは思っていなかったです。こうやって、みんなで成人を迎えることができたことをうれしく思っています。

震災当時のこと
ここまでご尽力されている、町民のみなさん、町職員の方々に、まず感謝を申し上げます。

当時、部活のため双葉高校にいました。学校の周りには高齢の方が多く住んでいましたので、みなさんに声をかけながら、手をつないで一緒に高台避難をしました。
その後の避難生活では、知り合いや友達と離れ離れになりました。精神的につらい日々を過ごしており、つながりの大切さを感じています。

双葉町を考えるきっかけに

式を通じて、みんなで双葉町のことを考える式にしたいです。
間もなく震災後3年を迎え、震災の記憶が薄れつつあると感じています。若い世代で、双葉町のことを考えることが、復興において大切だと考えています。
今後について、みんなと一緒に考えられる式にできればいいなと思っています。

みなさんへのメッセージ

震災で離れ離れになって、町のみなさんに支えられて大きくなっていったんだと実感しました。
成人を迎え、これからはみなさんを支える立場になりたいと思っています。これからもあたたかく見守っていただけると嬉しいです。



第3回成人式実行委員会は成人式会場となっているホテルハイアーンズで行われ、関係者も含めた最終的な打合せとなりました。





町をつないだ たすきリレー



第25回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

平成25年11月17日、秋晴れのもと、第25回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が行われました。

双葉町は、53チーム中49位となりました。まとまった練習ができない中、チーム一丸となり、昨年よりも良い成績を残すことができました。

駅伝を通じて若い世代に経験を

「今年のチームは、若い世代とシニア世代が融合したいチーム。若い世代には、たすきをつなげることを通じて、避難生活での逆境に立ち向かう強さを学んでもらいたい」

レース事前の取材に、白土監督はこのように話してくれました。

今回初めてのふくしま駅伝となった落合晃輝君（中一）は、「先輩たちにいろいろ教えてもらった。とてもいい経験になり、今後に活かしたい」と話し、先輩たちの想いが、つながっていることを実感できる大会となりました。

町が一丸となつての力走

「全町民が避難している状況で、一緒に練習することも難しかった。その中でも、一人一人が力を出し切って走ることができた」

「去年よりチームタイムがよかった。みんなで力を合わせることができた」

キャプテンの井戸川俊さん（大学1）と、区間13位と力走した大久保七海さん（高3）は、町が一丸となって結果を残せたことを、感慨深げに話してくれました。

「走っているときはとてもつらかったが、みなさんの応援に後押しされ、完走できた。」

応援への感謝を話す、落合美七海さん（中2）、井戸川悠太君（中一）。声援をいただいたみなさんとも一丸となったレースになりました。

勇気を与えるたすきリレー

「二斉スタート30秒前にたすきがつながって感動した」とシニアランナー森山光昭さんは話す。

「昨年はずなぐことができなかったたすきをつなぐことができてよかった」

森山さんにたすきを渡したのは、鈴木景一郎君（高3）。

「懸命にたすきをつなぐ、選手のみなさんの姿は、避難生活を送る町民のみなさんに元気と勇気を与えてくれました」

伊澤町長、半澤副町長、半谷教育長は、力走したみなさんをたたえるとともに、感謝の気持ちを述べました。





白河郭内仮設自治会

みんなで協力して困難に立ち向かう 県南借上げ自治会

白河郭内応急仮設住宅集会所にて、
仮設自治会谷充会長、山田継雄副会長、
大川義彦事務局担当、借上自治会館林孝男会長、
吉田健一副会長、天野洋子副会長、
志賀建介会計担当に集まっていたが、
これまでの活動について、
お話を伺いました。

集まる場所を作りたい

「みんなの困りごとを、話し合える場所を作りたい」

県南地区借上げ自治会を立ち上げた、館林さん、吉田さん、天野さん、志賀さんは、口をそろえて当時のことを語ってくれました。

自治会が正式に立ち上がったのは、平成25年4月ですが、同年の1月には、現在の自治会組織が少しずつ形づくられていました。

双葉町の方々が、どこに住んでいるかもわからない状況の中で、口コミで会員を増やしました。

近くに住んでいる方で助け合えるように班を作り、班ごとに連絡網も作成しています。お知らせなどがある場合には、連絡網を通じて会員に情報が伝わる仕組みになっています。連絡網の最後の人は、班長に連絡する決まりになっており、万が一途中で連絡が止まった場合には、そのお宅に戸別訪問をして、安否確認も実施しています。

現在会員世帯数は57。7班の体制で運営されています。

同じ町民なのだから 仮設も借上げも関係ない

段々と自治会の形が作られていく中で、不安や悩み事を共有したいという声が多く聞こえるようになりました。

しかし、各所に点在している借上げ住宅には、集会所といった、みんなで集まれる場所がありません。

「集会所を使ったらいい。同じ町民なのだから、仮設も借上げも関係ない」

その時に言葉をかけたのは、白河郭内応急仮設住宅自治会谷充会長でした。

協働して作られる交流の場

谷さんの言葉をきっかけに、両自治会の交流が進みます。

平成25年1月21日には、仮設・借上げ自治会が協働して餅つき大会を実施しました。

同年3月、館林さんは谷さんにアドバイスを受けながら、自治会立ち





臼と杵を用意して行なった餅つき (1/21)

上げの準備を始めます。
7月には夏祭りを共催し、白河郭内地区にお住いの方々も招いて大盛況となりました。

両自治会は、谷さんを中心に白河市との交流も積極的に行っています。

平成25年4月27日には、白河市長をきつねうち温泉に招き懇親会を実施。同年7月7日には、白河市への感謝を込めて、同市のクリーンアップ作戦への参加もしています。

イベントを実施する際には、双方の自治会で連絡し、常に連携を行っています。

こういった経緯の中で、両自治会の絆は強いものになっていきました。

**もっと多くの人に
参加してもらいたい**

「生きついでに」だけでなく十分。避難生活を通じて、多くの双葉町民と知り合いたい。」「かっちゃんの方に参加したい。」「一緒にいって、困難に立ち向かうことが必要。集まって、話し合おう。」「光明が見えてくれば、」

自治会に参加することで、孤立感や不安感を少なくしてほしいと考えられています。

白河両自治会の想いは一つ。双葉町民の幸せを願っています。

意見集約を行う場づくり

取材の場で、今後実施してみたい事がありますかと伺ったところ、吉田さんから、次のようなご意見をいただきました。

「今後実施したいことは、意見を集約する場づくり。現在、借上げ自治会では、第3月曜日に定例会を開催しているの、そういった場を活かして、要望・意見を集めたい。」

その言葉に呼応して、谷さんから、「仮設・借上げの定例会を開催して、要望を取りまとめる会議をしよう。」という提案がされました。

白河両自治会の取組は双葉町民にとって、今後大きな力になるでしょう。

編集後記

ふたばのわの制作が始まってから町民のみなさんとお会いする機会が増え、人とのつながりの大切さを実感しています。

これまでテレビでしか見たことがなかったふくしま駅伝の取材では選手のみなさんやご家族、応援者がチーム一丸となっていたすきをつなげようとする姿に、世代を超えた人とのつながりの良さを感じることができました。

1月にはいわき市南台仮設住宅にてダルマ市も開催されますので懐かしいふるさとの雰囲気をも一人でも多くの人に楽しんでいただきたいと思います。

今年も残すところあと半月。何かと忙しい毎日かと思いますが、双葉町民のみなさんが少しでも温かいお正月を迎えられますよう、これからも明るい笑顔をみなさんにお届けしたいと思います。



「ふたばのわ」に参加しませんか？

「ふたばのわ」では「後世に残したい双葉町」をテーマに、みなさんから写真を募集しています。お名前・出身行政区を記載の上、以下の方法でご送付をお願いします。

【郵送の場合】 〒974-8212 福島県いわき市東田町2-19-4 「双葉町いわき事務所内ふたさぼ」宛

【メールの場合】 info@futabamachi-s.com



ご応募お待ちしております!!



(写真例)



県南地区借上げ自治会

【会長】 館林孝男 【設立】 平成25年4月
【会費】 年額2,000円
【問い合わせ先】 090-4479-0622(館林)
【会員の居住地域】 白河・西郷・棚倉・塙・那須など

白河郭内応急仮設自治会

【会長】 谷充
【問い合わせ先】 090-2270-0882(谷)

※リサイクルネットワークさんは、白河地区の支援団体です